

第1回 共同生活援助 インディペンデンス 地域連携推進会議 議事録

1 開催日時・場所

令和7年10月7日、14時00分から障害者支援施設明塾会議室において第1回共同生活援助、インディペンデンス地域連携推進会議を開会した。

2 出欠の記録

当日の出席状況は以下のとおりである。

会議の構成員	ご所属・氏名	出欠記録
障害のあるお客様（選定必須）	M・N様	○
利用者ご家族様（選定必須）	K・Y様	○
地域の関係者様（選定必須）	小椋善光様	○
福祉に知見のある人（選定任意）	社会福祉法人りべるたす グループホームマネージャー 天野喜彦様	○
経営に知見のある人（選定任意）	株式会社グッドライフ 代表取締役熊木正嗣様	○
施設等所在地の市町村担当者（選定任意）	八街市役所 福祉部 障がい福祉課 主任主事 小松正博様	○
会議の運営に必要な職員	共同生活援助 インディペンデンス	○

3 議事次第について

1 理事長あいさつ

社会福祉法人光明会の理事長小澤啓洋より開催あいさつを行った。

2 地域連携推進会議の開催について

理事長小澤啓洋より地域連携推進会議の開催について導入背景、対象支援福祉サービス、会議の目的、地域連携推進会議の構成および開催、守秘義務について説明を行った。

3 施設等やサービスの透明性・質の向上について

1) 障害のあるお客様の日常生活の様子について

事業管理者文達明香より広報紙にもとづき説明を行った。

【M・N様】

・楽しく生活出来ている。この前お菓子作りをして楽しかった。またお寿司を食べに行きたい。

【K・Y様】

・息子の暮らしているグループホームのトイレがとても汚い。息子からも何度もきれいにしてほしいと要望があった。それが原因かはわからないが週末にグループホームに居たくないとも言っている。GHの大家様に伝えていただき改善してほしい。

【小椋善光様】

・グループホームが家の近くに出来ると聴くと地域のみんなは驚いた顔をする。でも私は障害があろうがなかろうが顔を見ればその人が悪い人かどうかわかる。でもみんなが怖がっているのも事実である。だけど私はそんなことはないと言っている。一人の人間として見る事が出来れば全然問題ない。変な目で見ることには本当に良くない。

【K・Y 様】

・自分がいなくなった後、息子のことを思うとどうしたら良いかいつも心配になる。だから小椋さんのような言葉をいただけると本当にうれしい。このような会議の大切さをとても感じた。

【天野喜彦様】

・私の勤務する法人では身体障害のある方も多い。身体障害があると外との交流はとても少なくなる。生活する理由などが見つけづらくなっているとも感じる。様々な交流や地域イベントへの参加など地域との交流がないとただただ毎日を生きているだけになってしまう。本当は一人ひとりの希望に合わせた生活が出来るようにしていきたい。

【熊木正嗣様】

・これまでの皆様の意見を聞いて、この地域連携推進会議の意義を強く感じた。施設、事業所の透明性についてこれからも考えていきたい。

【小松正博様】

・GH に入居する方は様々な理由があってグループホームを利用している。最近の傾向としてアパートに住んでいた市民が家賃を滞納して出ていかなくてはいけなくなり次なる住まいとしてグループホームを利用したいと相談が増えている。ニーズは住居に住めればなんでも良いという認識である。本来のグループホームの役割は楽しくそこで成長が出来ることにあると感じる。今後もそこに繋がる支援を期待したい。

2) BCP（業務継続計画）の策定状況について

事業管理者文違明香より、自然災害発生時における業務継続計画、新型コロナウイルス等感染症発生時における BCP（業務継続計画）について説明を行った。

【M・N 様】

・ヘルメットがあることは知っている。地震の時にはテーブルの下に隠れることも訓練しているから知っている。

【K・Y】

・新型コロナウイルス感染症が蔓延していた時は息子がグループホームで自宅待機となり、その時間が一番つらかったと話していた。やはり地域に出て活動することが大切なのだと感じた。

【小椋善光様】

・新型コロナウイルス感染症の時は自分も外に出るのが怖く感じていた。それでも生活のためには買い物にも出かけなくてはいけない。地域で生活する上では必要なことが多い。

【天野喜彦様】

・災害時に必要な備蓄が光明会はとても多く準備が出来ている。備蓄に関してはスペースの確保や感染症に関しては検査キットなどの準備も大変である。

【熊木正嗣様】

・BCP については所々、更新がされていない箇所が気になる。適切に更新がなされることを期待したい。

【小松正博様】

・2000 年問題から BCP の重要性は高まってきたと認識している。しかし、2011 年の東日本大震災、2019 年の新型コロナウイルス感染症と想定を超える事態は起こる。施設として様々な想定を平時から準備してほしい。

2 施設等と地域との連携について

1) 障害者支援施設明朗塾の取り組みについて

事業管理者文違明香より地域連携に関する取り組みを説明した。

【M・N様】

・花火大会がとても楽しみである。

【K・Y様】

・花火大会が中止と聞いた時はがっかりした。光明会はイベントが多く、息子も楽しみにしているし喜んでいる。

【小椋善光】

・私の地域のグループホームに住んでいる障害のある人からも花火大会に昼間から来てほしいと声をかけられている。みんな光明会の花火大会を楽しみにしていることがよくわかる。

【天野喜彦様】

・光明会を利用する障害のある方も参加していた町内のソフトボール大会にも光明会の花火大会にも自分は参加したことがある。光明会が地域に根ざした活動をしていることはとても伝わってきた。

【熊木正嗣】

・この地域連携推進会議も地域福祉の取り組みの一つと言える。この取り組みは地域の方々を巻き込んだ大きなものであるが現在、インディペンデンスで行われている地域のごみ拾いや環境美化活動に積極的に参加していることがとても素晴らしい。そのような町内の小さな取り組みかがとても重要なのだと感じる。

【小松正博様】

・前職では高齢者支援に関する事業所で働いていた。そこは駅ビルのワンフロアにありそのビルの中に理容室があり勤務する事業所の高齢者がその理容室を使用していた。2011年、東日本大震災があった時にその理容室の方が様々な面で助けてくれた。このように日々の関りがあることが重要である。

3 障害のあるお客様への権利擁護に関する取り組みについて

事業管理者文違明香より障害のある方への権利侵害アンケート、施設職員に対する権利侵害アンケートについて実施状況の説明を行った。

【M・K】

・生活の中での希望はお寿司を食べに生きたい。

【K・Y様】

・回答している障害のある方がとても正直で興味深い内容である。言いたいことが言えていると感じた。

【小椋善光様】

・このアンケートを見ると障害のある人の気持ちが良くわかる。様々な気持ちをもって生活していることがわかる。

【天野喜彦様】

・この仕事は対人支援であるため難しく感じることも多々ある。今は外国人人材の力を活用している施設もたくさんある。これからは人材の採用、育成がとても重要になる。

【熊木正嗣様】

・アンケートを取れば厳しい意見を書かれることもある。正対するにはネガティブな気持ちではなく前向きに捉えていく必要がある。アンケートに「結婚したい人がいる」と書かれてあった。これは本当に素晴らしい意見であると感じた。光明会ではパートナー型のグループホームがあることの意義が良くわかる。障害のある方がどのように暮らしていきたいかを考えることが重要である。

【小松正博様】

・自身が八街市の虐待通報対応担当であることからこの権利侵害アンケートにおける支援のグレイゾーンに関しては支援のあり方からあらためる必要があると感じた。グレイゾーンを良しとする文化が虐待やけがに繋がる。グレイゾーンという認識自体をあらためより良い支援の提供を期待している。

4 その他

参加者から意見はなかった。

以上をもって 16 時 05 分、本日の地域連携推進会議を閉会した。

参加者に対し次回の地域連携推進会議の開催日程を共有した。

○令和 8 年 1 月 26 日（月）14：00～16：00

（文責 障害者支援施設明朗塾 施設長 兼坂渉）